

2026年11月下旬

一粒書房 新刊のご案内

小説／文芸書
ご担当者様

〒475-0837 愛知県半田市有楽町7-148-1

TEL:0569-21-2130

Mail: book@ichiryusha.com

源流

●他二篇

四六判・並製本／132頁／定価：本体1300円＋税

溪川かわせみ[著]



【著者紹介】

溪川かわせみ(たにがわ かわせみ)

1949年生まれ。

1971年より医療従事者として病院に勤務。

2024年に非常勤で継続していた職を辞し、

小説の執筆を始める。以来、記憶に

残る出来事を手掛かりに、喪失、トラウマ、病気
などを経験した人の「立ち直る力」に着目して執筆
を続けている。

本書は、家族の記憶、病、ジェンダーという異なるテーマを通して、
困難のなかでも逞しく生きる人間の姿を描いた三つの小説を収めた作
品集である。

中編「源流」では、母と娘の長年にわたる確執を軸に、家族の誰もが
忘れ去っていた一つの死の記憶が、六十年の歳月を経て突如として浮
かび上がる。幼い頃の記憶から消えていた兄の死は、家族それぞれの
人生に深い影を落とし続けていた。娘は六十年の時をたどりながら兄
の痕跡を探し始める。辛い記憶を心の底に沈めてまでも戦後を生き抜
こうとした親たちの苦悩と、それを受け継いだ次世代の葛藤を描く。

「つつく法師が鳴かない」は、異常気象の続くなか、突然発症した
メニエール病によって、それまで当たり前だった社会とのつながりを
失った高齢女性の物語である。長引く不調と向き合うなかで、自身の
苦しみと、戦争や暴力にさらされる遠い世界の人々の惨状とが重なり
合う。無力な状況に置かれてもなお、人は想像する力によってその無
力さを越えうることを示唆する。

「境目の向こうの少女たち」は、炭鉱の閉山が相次いだ筑豊の町を
舞台に、少女時代に出会った二人の女性のその後を描く。「女の子らし
さ」という枠になじめなかった二人は、長い歳月を経て再会する。かつ
ての友人は男性として生きていたが、厳しい現実を受け入れながら穏
やかな暮らしを築いていた。戸惑いながら彼と向き合う主人公は、やが
て自らが抱える「女であること」への息苦しさを見つめ直していく。そ
こには、社会の境界からこぼれ落ちながらも、困難に屈することなく生
き抜いてきた人々の強さがあった。

三作品に共通するのは、逆境から立ち直る力、すなわちレジリエン
スである。容易には癒えない傷や、生きることの不自由さを抱えなが
らも、自分自身の人生を懸命に生きようとする人々の姿が描かれてい
る。静かな語り口で、生きる力の源を見つめた一冊である。

ご注文 申込書	貴店名・帖合	注文数	発行：一粒書房 TEL.0569-21-2130
			溪川かわせみ[著]
			源 流 ●他二篇
			四六判・並製本／132頁／定価：本体1300円＋税
			冊
			ISBN978-4-86743-490-1 C0093 ¥1300E

ご注文は

JRCへ→FAX.03-3294-2177

※返品条件付き注文扱い